

# 望むのは死刑ですか 考え悩む“世論”

Q死刑制度に関して、あなたは次のどの意見に賛成ですか？死刑制度は——

- ①廃止すべき、②どちらかと言えば廃止すべき、③分からない・一概に言えない、④どちらかと言えば残すべき、⑤残すべき

国民の8割が死刑に「賛成」——

それが、日本政府による意識調査の結果であり、死刑を続ける大きな理由のひとつです。日本では、2018年、オウム真理教関係の事件を中心に15名という大量の死刑が執行されました。一方世界では、凶悪事件やテロ事件が後を絶たない中、死刑執行停止・廃止が広がっています。

“世論”の葛藤に迫るドキュメンタリー映画とパネルディスカッションを通じて、“世論”の担い手である市民のみならずとも、死刑について一緒に考え悩みたいと思います。どうぞ、お越し下さい。

## プログラム

### ●映画上映

「望むのは死刑ですか 考え悩む“世論”」

### ●長塚洋監督ミニ講演

### ●パネルディスカッション

パネリスト 長塚洋氏(映画監督)

大口玲子氏(歌人)

サシャ・クリンガー氏(サムエル幼稚園園長)

黒原智宏氏(宮崎一家殺人事件弁護士)

高橋康朗氏(宮崎県弁護士会会員)



長塚洋監督

予約不要・入場無料

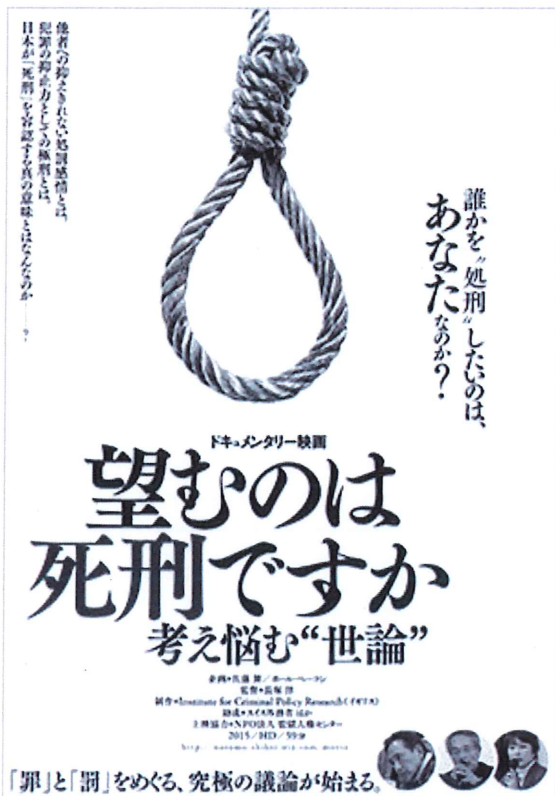
2019年 8月24日(土)

13時～16時30分(12時30分開場)

宮日ホール(宮日会館11階)地図裏面

主催:宮崎県弁護士会 / 共催:日本弁護士連合会、九州弁護士会連合会

お問合せ 宮崎県弁護士会 ☎(0985)22-2466



2015年/HD/59分  
 企画■佐藤舞、ポール・ベーコン  
 監督■長塚洋  
 制作■Institute for Criminal Policy Research(英)  
 助成■スイス外務省 ほか

## ●映画上映

「…死刑の情報提供や議論を、政府は避けてきた。命を奪うこの刑罰を、実は人々はよく知らない。そんな中、ある研究者によって都内の会場に、一般市民135人が集められた。それは、人々の心をより深く探る「審議型意識調査」の試み。テーマは、日本の刑事制度だ。2日間の調査ではまず弁護士や専門家、犯罪被害者などから話を聞く。続いて、市民どうしが意見を出し合う。多くが死刑について賛成と言いながらも「考えたことがなかった」という市民たちは、さまざまな反応を示し始める。死刑に反対する被害者も存在すると知って「死刑支持が揺らいだ」という若者。死刑が犯罪を減らすとは証明できないと知って「もっと苦しい刑罰が必要かも」と言い出す中年男性。冤罪による死刑判決の多発に、とまどう若い女性。知ることで初めて悩み、自分とまったく違う意見に触れて悩み、当たり前と思ってきた考えを揺さぶられる“世論”の担い手たちを、カメラは捉え続ける。答えの出ない議論のなかで、“普通の人々”の意識に何が起きるのか？混とんから立ち現れる“世論”のほんとうの顔とは…。市民が自ら考え悩むことの意味を、映像は問いかける。…」  
 公式HPより。

## ●パネルディスカッション

### ●長塚洋氏(映画監督)

：フリーランスの映像ディレクター、映画監督。オウム事件と同時期に広く事件報道に取り組んだ後、社会的ドキュメンタリーを多く手がける。作品は「報道特集/米国の教訓～無実の死刑囚130人の衝撃」(TBS系列'08)、「生き直したい～服役11回 更生の支え」(朝日放送'17=坂田記念ジャーナリズム賞受賞)など。

### ●大口玲子氏(歌人)

：東日本大震災・原発事故を機に仙台市から宮崎市へ移住。2012年第17回若山牧水賞他受賞多数。カトリック信者として、死刑囚と交流する神父と親交があり、自身も死刑判決を受けた被告人と面会し、文通を重ねる。

### ●サシャ・クリングー氏(サムエル幼稚園園長)

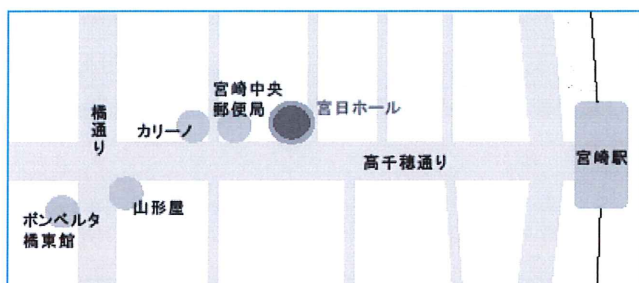
：旧東ドイツ生まれ。ベルリン自由大学で日本の政治や歴史などを学び、2009年から2014年まで宮崎市の国際交流員を務める。在任中に結婚して2014年から現職、宮崎市在住。

### ●黒原智宏氏(宮崎一家殺人事件辩护人)

：2010年宮崎地裁の裁判員裁判で死刑判決を受けた奥本章寛被告人の辩护人を務め、死刑が確定した現在も支援を続ける。九州弁護士会連合会死刑廃止について検討するPT委員長、福岡県弁護士会会員。

### ●高橋康朗氏(宮崎県弁護士会会員)

：犯罪被害者支援活動に積極的で経験が豊富な弁護士。宮崎県弁護士会会員。



宮日会館(宮日ホール)  
 宮崎市高千穂通1-1-33

※駐車場はありません。近くの有料駐車場をご利用下さい。